

北公民館

要約筆記オリーブまさき

要約筆記オリーブまさき代表 川田 節子

「要約筆記」って、なに？と近ごろよく聞かれます。病気が高齢のため耳が不自由になった方に、手話は少し難しくても「言葉」を「文字」にかえればよく分かると思います。「話の内容をつかんで、それを筆記で伝達する。」これが要約筆記です。

「オリーブまさき」は平成8年度に北公民館の要約筆記講座を受講した仲間で活動をはじめました。本来は、難聴者の方や中途失聴者の方のためのものですが、私たちは、これから高齢化社会になり、耳が不自由になった方のために、地域に根づいた活動をしたいと考えています。難しく考えず「聞いたことを文字にして伝達する。」という、本当に紙と鉛筆一本あればできることなのです。

昨年は福祉課にお願いして、岡田校区の敬老会にOHPを使って表彰者の名前を大きなスクリーンに写し出しました。参加者の方に「よく分かっ

▼明るい人権の町づくり大会での活動の様子



た。」と喜んでいただきました。また、毎年2月に行われる「公民館研究大会」には、要約筆記者として参加しています。「要約筆記」というより、スクリーンに書きの文字を写している、と覚えてくださるようになりました。あるいは、5月に行われた「明るい人権の町づくり大会」の朗読劇で、「音」を表わす手話、たとえば足音のコツ、コツ、ドタドタなどが分かりにくいのでス

クリンに朗読の詩を写すことになりました。OHPに青色セロファン紙を貼り、その上に詩を書いたシートを流す方法で明るさを押さえ、「音」の世界の雰囲気表現しました。

こんな手さぐりの状態ですが、耳の不自由な方が「要約筆記」があれば安心して一人でも多く集会や講演会に参加してくださることを目標に頑張っています。

現在7人で活動していますが仲間が増えれば、個人対象のノートメイク（ノートに書きで相手の言葉を文字にする方法。）も行いたいと考えています。そして、町内の皆さんに気軽に声を掛けていただけるようになりたいと思っています。

学習会は、北公民館で第2、第4木曜日、19時よりしています。興味を持たれた方はぜひいらしてください。

補導センターだより

明日があるさ

松前小学校生徒指導主事

岡田 修司

明日があるさ 明日がある
若い僕には夢がある
いつかきつといつかきつと
わかってくれるだろう
明日がある 明日がある
明日があるさ



懐かしいメロディーを最近よく耳にする。子どもころを思い出す、あの坂本九さんの歌をリメイクした、ウルフルズというバンドのこの曲は、

気ぜわしい日々疲れながらも明日に希望を見いだそうとする情が歌われていて、共感させられる。

気がついてみると、子どもたちもこの歌が大好きで、一緒に大合唱となる。

「うん？なぜだ？」
もちろん、CMにも登場し人気ドラマのテーマソングでもあり、よく耳にするせいもある。けれど、それだけではないような気がする。

それは、子どもたちもこの歌詞に共感する部分があるのではないかということだ。気

がめいるのは、大人の世界だけではない。子どもの世界だって苦勞が絶えない。大人が上司や同僚との人間関係に悩むように、子どもたちも先輩や仲間との人間関係に悩んでいる。

「若い僕には、夢がある。」と、前向きに明日を見つめ、自分を励ますこの応援歌に、生きる力がふつとわいてくるのではないかと思う。

いや、そうであってほしい。自分を私に強く願っている。自分を責め、一人で悩み、自分自身をさらに苦しめるようなことはしてほしくない。肩の力を抜き、可能性を信じて、自分のペースで明日を明るく夢見てほしい。

「ご家庭の皆さんも、どうか子どもをせき立てる応援団ではなく、常によきサポーターであってほしいと思います。どうですか？時には一緒に「明日があるさ」の親子合唱きつと、気持ちもすっきり晴れますよ！」